諸國武道容貌

上

武道容貌

全三冊

へ遠13
1691
1

1691
1

諸國武道容氣　一之巻

目録

一　紀州源
二　一ゞん寺

三 天海僧

富士詠

ゆきすぎてのちぞ思ふ富士の嶺
歌よわれ生町のそらぐく

四 慈眼寺

朝月夜ぬれ初雲の初ふきうら
富士嶺あり先業の果

みくしとりつ一念義とあるとる
八人の歌

一 新心源

抑うくの方と海とまじと時うてい方とのうり
いうり。新跡変化の家ちりと時うてい方とのうり
れ歌ぞ月とうる。今百年代ちて色くのちぐ
鳴ぐくとおさまる色のちぐめくく大和の色さてい
鳴トわまくれ中よ小泉ちんかりに田代字文と
いうう当法指南ちんのくいこ湾よわけよ源くうちぐ
門流ちうだいうくとひくくけわつまり立ちり月れ
だ。堀氏新平ゆり。そまくよ家うつくへくうんぐんの
役人江京新屋つう北十右ちうぐちゃうちんとちさ七字江
文屋安八ちれだ。京の山とちくミつくちわ内ぐくとふ

ところ新平兄武蔵つぼ男武次郎母妙祝ひいぐちくうけ
付ちぐいをとるとし血脈しよくをちいの源ちくとなうれどう
ちくとくるいまつをどおれをちくんをもをぐてれぐうち
ぐりこ。社会とゆちぐじこうゆをとん兄弟のらのだいて
ちつくとを酒さつ。付よくんしの女人三人よむひいづを
を新平ふつちくみ出生宮姉会よおかされん。祝ちを重
後をゆちこれをとなぐ門弟衆の芸法だを廣代間
を同おくり。出ぐんぐ当ちこれまで役員ちる弟が
を出ぐ。をこの渡い出ゆんあれそれよひくに弟子衆
いづをを教おの系会とちをこへどくの武蔵乃
れよ何ゆてもちを入をこれあちぐ法くまぐり出
ちをよとく一発をこれ門弟ちたく泊

とそちくへ出をちる出弱ちゆ教おようぐりいぐくこ義法
つぐど。ゆを出ちんぐちこちくまを出をのくちの
まくこをよちとくをわその子細といけを私近を病新付
役員の武蔵門弟のこいこ間ゆよいてちを芸子今八よ
ゆちり。方ちゆ文既ぐんぜれおあまくこれ才みを中よ流
の間三兄弟武蔵をちげミゆちくゆ中ちを弟新平。
義。ちぐちを俗乃をいちり今八ゆぐ分をちくこちゆぐちよ
つちふ兄ちろくゆゆくこのせちくよへつゆれぐ法ゆ
待負くせぐりこぐ。教おいいちるる細ようおちよちりく
ちんちちよちく。今八をおくこを一発の奥とこを負をくく
新平のちのようけこを負ちる。教おのくゆ者の法ゆちり
兵出ちちゲ今ちゆ法ちゆ。付ちぐいのうしろ

まづ〻ちんさんて
ゆよと言あまさて

いろよも
ぐるぐるまわりあてわろ
ばくオクん合ゝ
こちあ出たさ
ちりさぞ

以新平といふ男敵行の十人あまりだとてうしろと
ゝんとをるものゝ〳〵ばかり見八人八めゝのいりあさふく
みぐるまゝ討るまぐるまをひきあつくひ方まきまきとう
ちゆぐ。たとへ行方よりのべだとて天乃のわしこふくつい
ふさぐ出されたぐりらびとうまん事。一郎のけんがく
はをとゝまをつうされ出ぬ。ちりぐ事をのべるるぞ後
義見ふもゝひさゝうまぐるくの合八とはをろ〳〵のゝ時
ちく。物新平出出也をとなるさ出何行とやうんゆうを
おし。こうちゆう事敵いちゆまをもちぐに追うけ。敵
とおてひ母ぐひんをちゝうてらまをよぐぐくわ
ゝをさをぐちゆうのまうまをあのびゝ源わまるゆぐ先育
撰ひまりしゆひ家ゝいまのいさぐをりかうゝをやゝられ

ゝうゝく敵をるといんぐるよのべるる時。ゆう敵平をゆう
ゆさるゝハ一通りはたゆられた。新平義ハ二男親兄紹又
のゆうだ。敵討の作法もわん事の敵うつるハをゆ礼
ぐんぜぬるゆられぐ。まゆハはをわんをるべゝをつゝかゝ
ゝゝ事をゝうひさ源をなぐいちう
けゆ。母物れゆぐゝくゆ通腸ぬけの兄弟たねゆひと云
ハ大法ゆ武士のけゝあゆ。おゝゝゝゆ命と知行をゝう
ぐゝゆゆ待の義ゆたゝぐゝぐかりなゆゝゆ兄弟ゆ知行を指
上ゆゆりゆゆゝにゆさゆれ紀ゝゝあゆゝめんゆゝふ
わゝゆ。ゝをゝゆられ武ゆ文ゆ知なゆゝゝをあゝをゆ。武
士といをれゝをゝゝゝゝ事ゆ敵とゝゝゝゆあゝくゝゝと
ゝゝう海ゆゆゆとゝゝをゆ事ゆ云ゆ行ゆゆ。ゆゆ

へのぞうりハ母よゆるしてのるべし。おもうのうこ
よあるよぞぬる。兄弟たちよおもいかうがハ下ものと
さぞとよこれもうしぐうつてうくくとそもれハ。
兄弟姉〳〵ハ力ぜ〻ハ。めい孔をていぜくよ出をと
むるを父のたちを殺とべし。是今生のいとゐ兄弟ハ
るへ大海のまを白波とさいげた。なま中武者とよ
だ道源一てきこがされぬ。ちひとまぬ猟出をたぶ
よをすて吉ゐを。松出のこゐりそぐとかくをなれぬ
うこをう道。兄弟ハとぞ河よ南おひやとう道兄弟が
んをわの世ゆうへハ敵仇十人ゐ道だとそ称ろ人五人全ハ
ひとり兄弟のごとくくたろさらくた。仇程のるわんく
びらさげて新手よ。をひけのあとゐ仇をよ来ゐを

たとけかくとんとんしよひ。はなていよ弱しく軟
なる形りてけり。いさいひろうかくと底の風う
ざい書付紙より通ぶ。字を美い家来より付新年
志ぐい鶴よのせ門おさおてり出見見市流弱りるく
い。書ふゆて移ひよりいゆ事ふぞじ。いとで見又ふ同
おいげきとれとけぬ肉。恵安と拾てとこと付
元来世作金八い情別とのい。南北とさのさもとそと
実父の方へいせつて。ち坂へんよ皆いちのびるる
ゆさ。片時ちやく立越中京ふーゆうべし。
月通だ新年ぬさかふ拾るぐちてこ通だ。金八を
通てふまでこ物ゆ。外料金庫のゆーやよたよ
ア。ふを付て見れべーるゆ。ひ

つまでこ変別よ見事頭とりこむけ。つれとれだ母
ふ拾ちびこちぶこいちよ鏡出ふ死ぐいぐこのお坂よ
つこ逆ふ夜ごとの世ちうくこ此通のいくるこいとゆ先
ふちだくくと立ちよ通り

(二) 一心寺

田代金八い事ゆこ通ちやくこ。堀新年と討てのこ
ちぐにふ場をふこのこ。大坂よちるべのこくるをたちよ
見よおりぐだやここふて。武士のゆま
ぐこちゆこぐこく後るく事いい板通ぐんぐふこけまれ
面目ひしゆい生ふ情別よより。明友方へこ紙隠こ方乃
上をくちしよ。実ゆてを面ひゆーくちぐーと見の男ゆ
うく。又ふ坂よこ坂り実後のちぐ通ちちるこよちぐ

家をとり。義の松よ田代近八とり れして一人のかぞとれ
りへりくまつ。祖りまぬまくれ拙ぐくみとけだ姫武ちろ
半武人をあ毛初りをとうひげ志をとのこ。素とね
らふ〜こ〜いらぐまりぐ。我くかうぶ拙ぐ〜ぐ行とぞ知
恵を出。兵衛ぐ家を殺出。討てうるちりあいり。
玉之人老柿を立。小兵拙屋治平と入る中ゐわぐり
の商人とまつ〜こ〜毛。ま方をとびのぐとりの義よ
あらび分ぐ兵衛の義ちるとりのいとく。ぬやとく見とく
ちといふへ海だちり。球よ兵衛方へを出へ人やをくうり
故。形とりへひよ兵衛南北よ行者。商人よ主と
久へ業をねらふとこく。ま方我よりこ〜ヒ大坂よりと
ぞあ。町中どりけ海りり兵衛りる毛。とんぐけ通ぐいり

だちりう思ぐんとかる河のてちり。今子ゐ義毛い高殺
の心ぼけ知りとこ〜をけだ。治平ハ孫耳よ山賊毛一あ
ゐるちり笑新。おのの出思りぐ知ビうく春る一お拙ちゐ
お恵の出周。一命をこ〜上ヤうへいるれおひよちぐ〜ゐ。
球よ兵衛とハ心やちく殺せ一中。素よハ毛とゆる一結ゐ
おりけりうえ。治平行者をんぐけおんをやとあやうんと。
殺こ〜をりうゐるとり。りうりちりとふゐ〜こ毛と
りけ先ろんぐ出ぬだりりく生毛家ハ出ちりぬ。天ちるこ〜ゐ
半武だちぐいうハさ安出し。ゆぐんゐく町〜ゐ拙とゐるこ
拙るぐハ言りこ。ある日武だちり兵毛人生毛ハ義結。下和
よ八まんえよ結形殺をこりし。そこちゐちりとえんぐつとる形
ゐ一治平ゐんゐ拙ちひこ〜や武ちりれ。ゆづりしの治平行ゆへこ〜

よまゐりぞ。さんぴが此日賞揚まゐりまして。下生員
万葉ありしろさ俳判よひうまゐりまゝこさう
たるそれハ一流をえよりうりしまいるさや。先てい。ん。だ。ん人
なき。ゑへ。同たゝしつゝる事もうゝりしいざこさそりまゐ。
治平り公の間よハ。実ゑておひゝい天の引金。素グ仕合いづ
くらをつまゐ。ゑ。ゑ。ゑ

このれのこうんを佐ゑんやど。ゑんをかろく浪ふこてくるけこる
といへな武左ろ一のもの。こうゑぬ親。たとへだ金八郎まれ
ゐこ敷と弱めるとそ。ゑ方にとゞへ年。宮あよりれ志
言出ぜんう通ー。ゑ面ゆ。こゞかさどバ金八ゑ敷とヤべー。
佐平宮そ。そのくれれ居面。そこゑぞんぜあ私。金八面ゆゆく
ちるべー。そ通いは雑影とり抱出浪人わそだー。おひこひ
ゞこいろくの義とは弱。ゆ。ゑろく。ゆゞいかあそ通。おいとゑ
ヤませう。はそく才ゆて。ゑ本の出ゆゑことげらるべー。戒
れあとよろーくゆ。へ新ゑる。おゑえのかふくろ出へ出弱
ゑわらだはあんゑまゑ。ゆく佐付ゆるべー。先おいとゑと。ゑ面
と武左ゑつゆ。とあ。それいひこあう浪今こそ町人なれ笑へ
武士ゑまゞいりちあべりどそんゞゆゞりひあうゆとはこへ

ぬけのあいさつ物をいうあと命をさると。力ふそうおよ
とうくまだかしとさがしたゞして命をさうろう法をも
らわずとちらねとやい私の三ぶをそれとぜひとろとへむこう
といふものをひめて大をひのりてあり。やあかがろう一ちうち
くごせよとおうろうちづしてふぐんとろ西をとうさび逃
うけ酌おそしとろとさがしれだ。命八方かくひ1
きしろ書中ひいそれだ。秋くがれうへの事をを書を
くいて金八百付三度いてでさ懐中。治平ごうび中町法親
へかげこを宝あり武分まちう移つんと。いそざちくに後
ひしとく

三　天後酒

ちう年ちくまたを名。わくまだそろれひうすこ末の茶代ちう

まいてうかとゆうね逃すけの。茶やち茶ちう切
大坂天後へいそぐ武士。田代字中間を人めつ通ちを
いそぐふ程ちく書ちうおよ。天後のかとうに付ちうて
うこ郭ひめちるいぞ。この富札田代近八とちう色
やてとを。茶屋を用ちりてい中とおがうを人を出い
いちうちとをへしうぞ。田代金八とを富札付が月
ちみそ茶りし若代後道下ちうべし。財をてい中をを
おぞ。若代方のそそう私を茶ちあ若茶秘代更茶りしあ。
をおを私迎富札をまく茶ちう代方ちう相法富札をを
い一所ちう富茶いうをれちうをうを人あい変だをれちう二丁ふ
うを町をひち後がりそんぢをうををのうし低りと茶字
を更合点せば。いやちとけうふものをあうば紀金八あや

宮左衛門と申若侍ありけるが、
おなじく付きまいらせんと
今の一云それかぐらうさぶらひ
いまだ若きなれども、智
しとも。をわらう武たち武
かたうけぬ。あやしき宿れ田代近八とぞ。金八金八
とうとて宮をりにぞ。金のどうへいぶりけ
人たびあるぐうえんして
らびとちまれをめて
あいつりくとけいを宮
の兵衛。うつるあるぐ
ぐいめて金八やどいかりと

宮左衛門と申侍よりまして師
南庭の兵利ぐうり。根い金八へうそうどめて見立の
出。を浪い親子のちをとりれよをあ
でおいあるどいをぶひうあるのは一云。ずよ金八の近の宮
書ちぐへをてうる金八ぶよ一指を助ちりせんとおり
めさぶいやといやぶ。を最い師弟のようゆりえぶを
んりとよいをふあいりといて宮左衛門えうくぶと
けをよおよだね事兵今金八あるうへうれいをれた
ぶ。せけぐうりどちぞこ
弟ぶとけねた師の一云
ぶよぶいしゆとおつを金八
ぐてをうると宮左衛門より

明神

うくんぐるまよりまをてりどんだんだやうして撥剣をせよ。ぱんぱ
をスんぐを合ー目はのかたちとうとべーぱんへうちどつ
とを名家よりあるよだべ。米丸敵を行くくねけとつあうる。
金八いうぐちひぐんうーこふぐうど居かとりぱ大かうこ
とかげ出ーを方を丸米。新年を付てのいさ八素こんぱ
クセうよんうーへどうびさうのべてぬうちぬう変眼より敵
をを。をををいうをぬ金八つとりんえうをてひまうつと拍ちうぐ
敵付よまてを勝ちうて付まぐとうるとてちうぴうまう
ぬを方ぐうぬりをいまて。金八ぬうちひ金ぬまねまうこ
よい今いう宿ぬとひ敵ぬ。四代金八と書うういひ方よ
ひうまういぬ。を方を三をぬ。ぐひまうのの米丸敵うくんを。
素ぐぬやう方変をうちふを三てるを極いうふ養父

るれでとて一はちやくをりしくよ。まじひぬうへうとう
ちひをうちぬ一を三よ兄米眼より角を三ぐう変角ハお
の色ぐたのんぐ助ちカぬるハいやを方が助ちカとたぐい
よ掃ーをりぬへで方変双方ぬちげぬ金八よぬ
むくへ今を三いふしくくとちひのぬ今の一を濃見ちり刃
ふーやうぬぐう。我赤い代くを氏を撥重ー列をくげさ
ぬ役目ゆへふこりの敵を赤ふうー名弘を沖ぐりしい
一生のひやまり力を勝よをうをじ刃のぐまー付ぬ行事ぞ
武ちう武勝うー重素ぐさじ出ー付てををくをりし
よかーへけぬげぬる河をうく。石をいうをを一生ハ義
の門れ義でし。ちちぬい武士の名名字とひしまうくと
ちうー。ををやうふ勝負をををんゆをうーぬい西へ

来りて兄弟ゆとうてさがつまをそらゆとあやまりて
ゆるさんとて帰りぬ。敵味方といはるれども兄弟ゆえ
ゆなりしうちへ討たうちたまひて中くいとまもなく。扨
まんハ玉へ向うべし宴ハ所やのゆるれだ。さうさうさせていう
ぬ扨。敵方月潮お扨ハ人数をたるれおたてをやとく
いそげといさむるよ。兄弟悦サア今ハいざ扨ちづ出へさりけ
出る。今ハもだしとおとあ。字ちまよりゆ今ハ今晩の物負
二三日のべのつまを細といつた。玉元の弟子ちうだへ湯ちか
とうんと在人へ湯治のいてをけ扨南地へ武れおをうう
ぐひをまるこ。ごまひ物負と安ゆうだ迎てくけつゆんひつ
じゆう。二三日延引せで来れ他ちとてふしぐ出てをを
りぐ。ちんじゆうの物負をくつせん引敬あるまじやとう

しうぐ。ちうちまようんぐをを一云よいつりかをうの。方一云場
とのぐ出てんと手をよいをちうねた。武士の一云今強よ
ひうしそれぐ海ぐ相よちうぐ。二三日ハ延引をべし兄弟若
をう引ちまをべしゆ又毒云よいてハ字ちまゆうびぐを云
んぐべしと。扨扨わをうふあいをうと兄弟をうと安
ちぐけ。ひうへハ文月十日にうぐるべうぐ。主方物を有敵
御ちん来月日。敵若寺の扨来あをおまつべしぐ
それをいを方命ハを方ゆわづをぐいうゆをわづをりを扨
ぐまをとの物来をうあ字ちまをハちゆる兄弟ハをのぐ
ふるぐをふを海ゆ。今ハハ物とゆう扨よのをうをををるく
んううをとわけうをまりのようひあをうまをぐりをう

流よりあくまでもくふうをこらし、国代金八郎を人をごよいこころうくびっぱちまれをあてうちうけ
重代のおれ刀あり。引ぬいて切ん子なれば熱
若ものの肌ゑがいかしらよ揃をうけ。若ものの
そうとこそ、はらうめ。附れうつくびを背後刀ひらめ
うっさもゆりくと来りて金八をまっかうしき、
先手をまもり祝し。月はのうつ雲今切り張かたてうう
こを拵とせよ。先手羽をそろへいつまでも切り手柔めう
らミ、今日こそとかりっぱ。ごゑんと武ちうす後おつとり。
姫の門武ちう門武勝実れ歌ぞんざと。祝へいとまう
てうこうる。金八うこさ後ろ切つこづーだぞり
ちんとちうつて武ゑ刀ちりのべ。とそとかぞんとち

五人いりの弓よりいたるのびくんこうやうしこのゝかひしゝ
侍は四人めさ付よおうしゝ物ゝり切なり。もし三方し
ゝりゆりやまひさゝゝのく金八。一度ゝゝどゝ二度ゝゝ
へ人ゝ。敵ゝゝ方彩ゝまし討よせんとのたくゝおのきいくゝう
ゝとゝそゝ敵ハ三人のゝゝさゝでゝしゝ三ゝ三ゝ切ゝこゝあゝゝくゝし
勢ゝゝゝゝゝゝ。ゝんゝよゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ
くゝゝいりめゝゝゝゝゝゝゝゝ敵ハ八人ゝゝゝゝゝゝゝ切ゝゝ
れて武ゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ

先湯治といつゝり金八よりこゝ[illegible]
中[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]出し法のこゝろをこのふべ[illegible]
ものを[illegible]ざる間八一家のこゝ[illegible]門いこゝ[illegible]
之後つゝ[illegible]こゝ[illegible]出され金八が一家方へ右の証書付をもつて[illegible]
つゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]ふかゝ[illegible]奥ゆ[illegible]
こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
[illegible]といこゝ[illegible]出[illegible]法[illegible]寺[illegible]
[illegible]脇十文字[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
[illegible]

㊂ 根の山

㊃ 鞆丸山

[illegible]丸門出振舞

ぬしの中とうけて
手舞するわるや

うつゝ蓬丸歌

数くつゝる歌丸
史の歌付ゆせる

鞆丸問答

㊀ 喜月山

喜月山のあつさとものごんと。日象河原の夕ぐれ
加茂川の流れとそ。赤ゐ[illegible]ぎ[illegible]ちゐ
のかれでゝ[illegible]。[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

あれまつまうて流人と申す。拙僧義より川辺小家をもて
家貧僧ゆえ三日人いらくの書。ふの中よりあるさ
ゆへうろうろ姫をうらへ。ちとてすみあてあるまつま
といあり。此姫よむこをえらんらくにてうとべさねびひ
のこえんぶ拙の利せりうみい車殘といへをりそあ。迎
弁の貝殻ちぐだ人れ雑巾をといとびあ二女の車に
を町西へこいり。おの通ゲ筆のまるにまう世間あくよ
ひまあく。嘉兵町衣中と河ととご用くの寄合よ
と。名をちいよ発をうまへうりあいと。町代やうんをね
めつけとかるうをとうちう。ゆーてい公事をせう月と
かくさびんまいぶていのんぐうりてやうりにのひまあく
あひういとわくまう西殿をさいあ。さひてひくをうとあ

ひくに。世右てへ家らくくびまて。院よ三人まで書みと
れ書ををを上まくどゆ。ゆくよたりどのうあのとぶえんと
付実敷方へりぐ。拙多拙へをのこえ中あくとあゆる
よ拙うしてくとこに祢拙ちおくそとあてをうしさる
にこをくぐり。今四人めの書ふへ南新天ぐへくいるふの
伊賀人寧人へ。名強弥方更といふ子息出ろうといるよ
金子ホ毎の拙糸をとうつびぶ。お通の入りしびむこ
つまへ強毛し近日あ月まく拙云ぜんとを恵へを拙
出ちぐ。老のへまひとろれうろ出ろ文月の法ゆや
こ出ぶ。ぐうろうぬをいくひ南新実敷方へすぐるる
ちにはよ上よ出ろ義ろ。てのの拙南ろ。おこうぶ
く書生付ろとへをたぐうの那義。これ多んくう

と花少く新宮のわかさつ切。りごく山路分もえあて所
書出すべし。ぜんと切右ひらりごくやうへ拾本紙
西奥ヤ著名れた比方ふ本りあ悪性性よつうひとそる
金子共為ゆり山家の病気の人参又ハ葉
粉り通元義月法通べ二三石ゑ。拙を方へまの通たを
陸ハ今日を新宮のむとびはるふしやとあみ。
比うへなごう春性の羽水入のつこ。世よをまごとをる
なれどもふ縁とをつこへよ通者をおくふい新のをるか
らひく月ホ引法。書性をるとハ先ちくの寧人おを
おうし。ような棚あけられまりを中へ塗る歌子の
ふびんさを拾へうりをるの。立金や一孫のつを貝歌をを
をるの。今ハせんうをうをりのかるとりを通ハ一ふ右ひらりハ

うとが寒りとうをつけ。わをさとくあをて夕著うを塗ハ
塗をかくぶハ。を法為新春月れ社よハ神神おなま
れを毎ふとて。近出ものを生ハつよあよだび京大坂より
寒るへ今んどををりてあびらし。を中よ花熊の生命
中川表ハくハ立ハ紙をやうをひの師をて世をより
のうつをとハ。男ふ塗をを中に右ひらくハ中をくつ
義共事ををゆ。りて兵事と中つせ中為れ表紙
塗。なの病気よ付為新実父をハ塗り表性をるよ
し。おりげ寒りを毒女かう又いを右ひりりて名材のつまを
さをひりをとのやあ出の里ゆりをやこを出乃里ゆれ
むあハをひ男なれど二世とやせ。ちを中。表ハ
ふ塗よををりを通おやを表寒りを表ハ

三人づれの三千うどん。本清水へとうじこてぞあり坂
やこみまぐーいのふくこひひ此い物とタもぐれ。ふるわくがさて
やまこ一年。ぶれわくぶさう出ーあつまぐりごか付まぐ
ひ。ばらしつけらる宰人をめ出来諸のうくーち一銭
二銭のばかりや軽をるくいへだ。ごこのものたにくく宰人へ
らのくうんぢんうこひうういむかんののうさりん耳ーう海
ーくむひるーぶくまへつくるくいうごこの京そぐうよいを
もらあ。来諸の女中ーうこ呂松どのぜひ合力しつき海ふ。
かごの男つさのけめで。を見のうり。さわぜのたまりへ
そうごふーやくくよあうるとり中いこうをおの出ーう
そで先せねのりを京ーうこそは出んやとぐうぐーう見へ物
物ぐで。をうりたおの出ーうぐーうさみへ七人物程の事を

べううんあんかうあくおにを二三度にみど。京ひうと
まりをでおつまいうこの間ちーをとうけ。見うごの京ク
海へてあくぐあうるか。雅月めうへ中をいの物ー時あ対
よあるまへ物でもり。そうごうくぐーくよいせあうの物
の人とそを振ーうの先食中てをあるまで極みこそあう
わ。諸ーよ年ーうりその紀先ーみとあくー歌をなうさゆへ物の
とをりのへまひめ来さーをうこうーれ。物紙のあまりと
らーありせあそのたをけとをづーうこうさせ。表八ふう数を
ん付紙ーよつこそりくうりひうとうさをいうーめーぐ京
おひぐ出の死ーぐこあひ出ぐーこけくあぐーよりぐのう
称ーよりうるまかるけーよういおどそひて人出ふとを
物ぐそめ。をうくぜんのぢーうくうあふをーへい物あり人へ情

のあらまかし

㊁ 三笠山

西日さす新のちぢくく海の面。四ちりて夜たく
をうく汁なる竹をのこ。ぐさわつめ。る拙らひふる。病
よ月りぐられや。あい親わ系ぐきをたるれ。このるを
のねふゆる。拙しふい業ゐべせんどつあ。る宰人をそ。ゥ
さびく著うこのもるーの枝いゐけ色を移しわいさい一
節よむしうのたどりさうけ。おつまをうさに表八ゆう
ふ系系ゐう新よたづひよ。も色だ。ゆうへ愛現めつしのた
ふう枝をたや世でわ。ふしくいうぐんげの花ちりて
月とゐれと。来出ゐんのつ。さめゆへ二段はめふかる。見
的祈の出ー合をとさーうひしてゐちぬ表八安てあぐ

くの花中出乃舞の著中をアさび花色のぶ海法
出ちん次よおつま夜義。ゆ。ゐ夜どもうひはいの系うん
こゐううこのどくこへる西ゆるめいとちう春ゆへゆふ
のしのゆをいの色ちやたこ系ゆあいわくご著りどいつま
ゆ。ちりげまうやいのやうやそこいはねどちまる事出親ゆ
孫たを夜ゐへいう絵しくいる海ー。ごもひ一表いうれや
どくうちうへとあへさりと。たるゆうなづうさを系ゆう
とゐたくくちちゐ色こる私ゐちんせりなる出ん洗ちいよ
万系仕合。つまと私弟一四の間よまるみうら。表ゆ系
不春よ一拙ま少へよ。拙ちゐべーくくをあくたづゆまを人
いうう数ぞくゆりく著ー汁なり。拙をいは表ゆ文の氣よち
ぐへ。ひげちくし退出されあつまいちやの氣よ入て行ゐと

どまるひろう迎もそのまゝぬふう梅あい。猶よ美又孫女
武士のうさいぢ今よやまぶ。りーそまと氣つうさがべ山ふう
梅とうゝひべー。時よ伝ちんせの皆わぐゝとかりゃえん。
こゝひそでゆ年兵伝ゆゝ。とゆ丸ぞ。氣八如がうこぢ糸
よゆう一こちゆ伝む。ちゝーおまへと右業夜親よの中ち
こまこれどおつまれとのふう梅の中。我こふてりかりてそ
いう孫だ立ませぬ。おいゝひんゝてひあゝこふとそ。こちひゝう
てゝうこおとひげよ梅まりどれとぺ。ゆかどひごい泡ゆう
こちのへゆうこんな時。だゝこつのてそごんととおげこれ中
よゝうゝひげ。義利と白ゝとふ右ゝ。四人へ一緒よ親兄合。
おちゆまゝうる形ゆ親孫女人ゆうとちゆ。ふこまこと
ぐゝやゆまゝこねの神ゆとひまも言ゝこよ。ゆかどつゝとい

とゝのさあゝこちゝ
ひゝへつまちゝく
とゝまれ
ゆゝ
ゆゝ
ゆゝ

こゝろよくあいそさいでゝ四。三人うゝおかゝあぐくく
凡也ぐさいぜんあぜへこうされ。神をゆり三人めとめと凡
令せわらされて河と出ざりさ。親孫ちまへいこをつうどこ
こらめ面也れれ者東。雅人ゆりくづわ也だたらう歌
うくくおかゝくる。私師匠表八夜又いお内義お妹ふ表
月清の河ゆさ出凡舞ゆりと也言と孫ちまお笑出月
分年ハ出て三てお宿斗形。世粹ちらゝよ対。行りの出世話
くさ。けゆ。ぢゆりりて。乳ゆよ歌ゆりくさいこの出。
先一夜月と出ゆりつゆ。西の名ゆと出んあ也。ぶぜいゆけ
也ぐ御義の出乳ゆいけん。世粹ゆ病乳をけるい余紙
おゆゝはひしゆ。行年ぐこの出出とよ孫ゆとひ。ゆこの新ゆこうる
いしと行と食ゆいもくまれ。いでゆわげおゆらせんむゆ

のぶゝよゆ河り。ゆ男をして白のちぬおあゝをわげよ
せいぐくゆちあゝいまあの粉のあつゆをんゆやゆこゝぶさ
ぬ。三人新とおまりゆよゆ人のゆゆゝよ神をゝ。さゆにわ
たゝへゝおあゝ。ゆてゝいゆこのゝりて粉くゆ。ゆゝなゆビ
うゆ也ゆゝうゆゆさ浜世ゆゆゆのびの源せゆあゝど。表八さ
らぬ風情ゝて右ゆゆ度いよゝゝゝの事おゆゝゝゝゆそ
んゝゆゝいゆそ也ゝよ付出ゆ臭義。右ゆ表ゆゝゝ出出の岩金変
粉条のゝゝゆ出ゆゝ度と河ゝゝ粉ゝもゆゝ粉条の金ゝりゆさ
也ゝゆ孫ゆ文粉ゆ河也。ゆ表ゆゝ対ていゆゝゆゝゆゝ方の
ゝゝ人ゆ粉ゆんゝゝ条い伊加ゝ寧人。さゝゝゝゆゝゝゝゝお
ゝゝゝのゝゝゆゝゝゝゝ人ゝゝ河ゝ女房ハゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ男ゝゆゆゆゆゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝる中へ入まゐが論りうまこれと恋つうひと祈つゝいか
らてゝうを事なれだ。宮ゆ〳〵さんとゝひのかよ
ゝたうが病気の入め恵性つゝ指〳〵おり。二三百五を
元竜のゝ〳〵ゝさまゝ〳〵ゝさうざゝれた。町人の法をちう
ねだ。どゝうのさゝをゝうゝされいり表八夜八名ねゝとゝ。何
とゝだはちあん軽をるとゝ波おがゝゝうゝあゝ表八ゆゝん
安り恵ひゝうゝひいれゝ〳〵ゝゝせん抱ゝて右系を恵
ゝ表ゝみゝ三人殺せゝがゝがゝうゝ事みゝんゝを付。表みゝを
ゝゝわまゝゝさゝ抱系抱をゝさねゝ人町中のゝゝびゝく
めた男ゆかゝられだゝをゝ〳〵ゝゝ〳〵ゝ抱をゝゝうゝちゝう
ゝくひゝうゝれゝ人〳〵ゝれねゝかゝゝゝかゝ行ゝん。ゝゝゝ〳〵ゝを恵ゝゝうゝね
抱ゝだゝ〳〵の内と親ゝみゝゝゝよゝだ恵。今ゝゝ公事ゝゝ〳〵ゝゝゝ

けゝ。お世話ゝゝ恵ゝゝかゝお付ゝゝゝゝゝ恵系ゝゝゝゝゝん
ゝゝゝのゝゝでゝいゝゝゝゝゝゝの一ゝゝゝ入ゝれだ表八ゝゝゝゝを
ゝゝゝゝのゝゝ旅のゝゝゝゝゝゝゝ恵ひゝ抱。ゝゝゝゝゝれゝ恵ゝゝ表
ゝゝゝゝゝゝゝ

をかやうなおやごれの神をどん付まつさわくちゐまい
とつてやりくちやたらうさうひしさいかれをひわくちをを
ひはたはいつよ勢しりすぐまりと作る也月にれくよ
かゆりおくれおやげやりとそさるぐのりうるいそごらのた
まりしが。梅さまうでまるるちりーぶのとそ寄べこ
とへ去よらいつてをさをしーさんだまいのよ。ゑこいよをのよ
ちぐさを通これんのおをつくさー事。ちつこいかわおそろしや
をうとうけるつぐこさ見をたーちるぐりのを。おやとやかよ子
へあ通とこれこあおやよ神をこを。身命とつかぐ事絲邦
のだちこをとるゆど。西せん寅也そ後を切的ちりの
はらうやとあをん。ちるぐるるのゆるーてこべ者ひわこ
ぐれとあーちるぐぬぐ。おつまいやぐそいぐさちあつくを

武士ゆそこそをへ連を。おがつかのうぐ。ぐうるをこ
ゆ[illegible]を投ぐとをうくをこおんまりをとこをつる也。ちるぐ
るをしび一つ面よちかんんぐーぐをぶんをの方海を也り
こを也とちるるだ。せめそ一どの面花おるへん拍とと今小
ていいう中の涙悔。ちるるるそちこるこ事けせれ名
んいうすくを。事ゑらいくゆりとおり名おの何。名おの
新こちりてへりかげいちり。ちだるるく時どうつせーがあ
けををれるぐあーうん。くわうくちるんと分づる絲こ長八
ふうぬさいぜんーりあるほれまこぐーしぐるりる中ひちる
て入長八いちを多。女かういおつまをうこいこれうるこ通
おやの神をるるるーを拍ぐーをちるるーう。こを方を人ふ
びんこを小。世をを人めもちぐかーび減まーるこ世ををのう

ほうあやのれとんのわりごくくだ。命まれつう身をのち
さいしゅう病た世をさうえ。一日まに日わんらくにゆ一ゑいへ
をちうけんこそ。みよはれるたぞう一寸身の義利よおぶい
せだあや孫をまどの所財を孫よへのこられまいぶらちまち
おとだう切ゆうん親を寿命の才一。一つよいあつまとりつ
迫あるうのそのうさこ乞中こをよたこねいうふ我くふぐいおけ
れだとて乞ていと安よせうるく腹。そはそこるよぞんどる
と何とあるらけせへーをれだ。おびゆをあつまをまを合
せうこーけゆうさはねうんつうふせまる乞うう。どうげのを
こりいうれおりへだ安か別ばうへい我くぐ身れうへよ孫しく
軽ゆうと。腹をおびーうびるるゆぞ長ハふうゆよろこび
ふうひあるかあやみたるらへさをぬ孫うの事ゆをお後

それをハうんざるをーよつうちりと乞ぐ拝うう小の松とひ
漁谷もむりとをあつどーを命ゆれ。ゆ時の火ハ世れ法い系
こちうをこてぐふるまをう。ゆうまひこハぐちうにをるハりんく
てうぐかーのりの

三 恨の山

長ハふう恨いあつまをうをひゆるうちゆよいとゑ乞近昔
むういのゆぐこうさうせん。今ちぐうう。ゆんゆんまをぐうんちの乞ゆり
とまう乞ゆへと会ばうよゆひううしこうこのゆりねゆて長ハ
月れうへ西を方れ大名立へや人。おおの月和をまつ乞ゆよゆいさ
つのうさり。月法の法乞ゆうゆひ近日むうひうまるむゆ。さく
とひうーく一ゆ。ゆうーびゆ弟子乞れのこうびゆ。歌乞のう長ハや
これうるハ歌ゆ今月乞ハ師弟ゆとうたぐいよんゆ安くゆ食ゆは
ゆをゆくくの法世法ゆ乞ゆひ義。法是いう沙私一義を未うぐ

くよひ〳〵どもやうぐふうあひあふうこのたなかちふ
ちとそこざこうぎ者よわもしりたゆくよるゆく二
三月の内ゆれ又いおめこへのたなあ。出身仕るようこのあおいと海
こひぞこうぞのくとり入ぬ行ものたは酒一つゆうりとまつ
てくてこさこうぢ。板右衛門ぞのくぎ今ねこり三三度ばよ
やりしどぢ出用ものしまてえへざるこてろ。ぢたるたるる拍
紙れりつこさこみ表八ろかこさとりろ公事させこる
とろひつめこしひのさんろひもしあ出わへ出あ。ぎん
のるそうぬ帝こーさ。かへとべこさ拍子紙いうぞど
りど出だとそうるいぬりれる事れか作ものしまこると
そりぞんしとるくりどえれるど。ひとれるこるこうしうど
弟子衣町衣ことだとそ作へ板くあ乃衣ち象

のもうたりのスーとして紙を付て遣出す　愛敬
とてこゝに移してあるこゝろのひのもとをとこゝに
うぐひす殿い出花がおそのつちぐひん地まで作
付こゝろとおおのおりげたゝ殿の仕合人あり
おりさぬ方おおを知行よりあり付ぐとくいそ乃
酒のめやうこゝやこゝ一とといちひおさあこゝ
よりぬ西へ表へむいのさむこゝ三上十内
うこゝておくふとこゝり表へ八ふゝ梅出むこゝひこゝるくこゝ
海西方紙の方は表へ私方神出れ指ゝ表へ尾ゝ
義方よれてゝこゝ仕合新系の義西表出引まい
取まるとおこゝ川出よとこゝりぐまつ出酒とこゝ先ゝ
おくのこゝこゝとこゝひいるゝ女ゝこゝ揚ゝあてこゝ

とい物ゝんどこゝこゝまゝるを中京あつまいゝら
こゝぐこゝぐこゝちこゝぐこゝあこゝけこゝこゝ表へ八ゝ中房よれつこゝ
こゝこゝおこゝちゝげれこゝこゝてこゝでんせこゝ
のこゝのこゝ西へこゝまこゝけこゝこゝこゝ田金
こゝちひこゝちこゝゆこゝけこゝこゝこゝ

ゑ引立ち所をとおちげハ中へ立てごりわしきお
ゑとなをゑよやゆとハおちおおぐぐゑゑくおまづまゑんさ
とぐりつくぢゑ系いよくくゑゑくとゑ地でてこのつがちん
ぢゑのゑちゑよゑつゑさハそゑゑゑのゑぐぢゑ中の物ぢゑ出と
ハ天地のちぐハぢゑやぐみのちゑんちゑゑよぐぐゑぐがゑんとおつ
しやらふうせおろこんとゑ引ゑろ。やゑドとゑ房れ付ハと
ゑゑとゑゑゑあゑ付ゑゑまぢやゑらうぜゑゑゑの出おくくゑ
ゑぶゑ系ゑ十四表ハゑけふゑゑうぐこゑゑやゑ系ゑ物面へ
こゑんハゑりゑぢやゑ系をけぢんゑれゑとゑて分ゑ
ぢハなをゑよゑゑよゑ姫ゑゑゑいぢだゑゑゑんぢ系ゑ地へ
ゑハおけ地ゆハゑつけ第ゑりハ社会おこゑづひが寄ハゑと
とゑゑゑそゑハゑゑとゑちげ十四ぐゑ裏ゑ乗ゑゑ姫ハゑ系ゑ後

とゑて〻石付の男ゑこゑ。今日ゑ会ゑハゑけをゑよ
ゑゑゑ近日出ゑゑゑ〻ゑ〻ゑゑゑ

[illegible]
んとそろ〳〵へゆるかりつゝ
よろ〳〵へら通ませう。[illegible]
[illegible]
く。[illegible]
[illegible]
よりよどゞとゝよる。十四[illegible]
[illegible]
ぬ[illegible]
ひろよ[illegible]
れ[illegible]
大坂より新町[illegible]

[illegible]
つむつゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

四 鍛冶の心

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やれ八ちうろう出たぞ
ちうろう

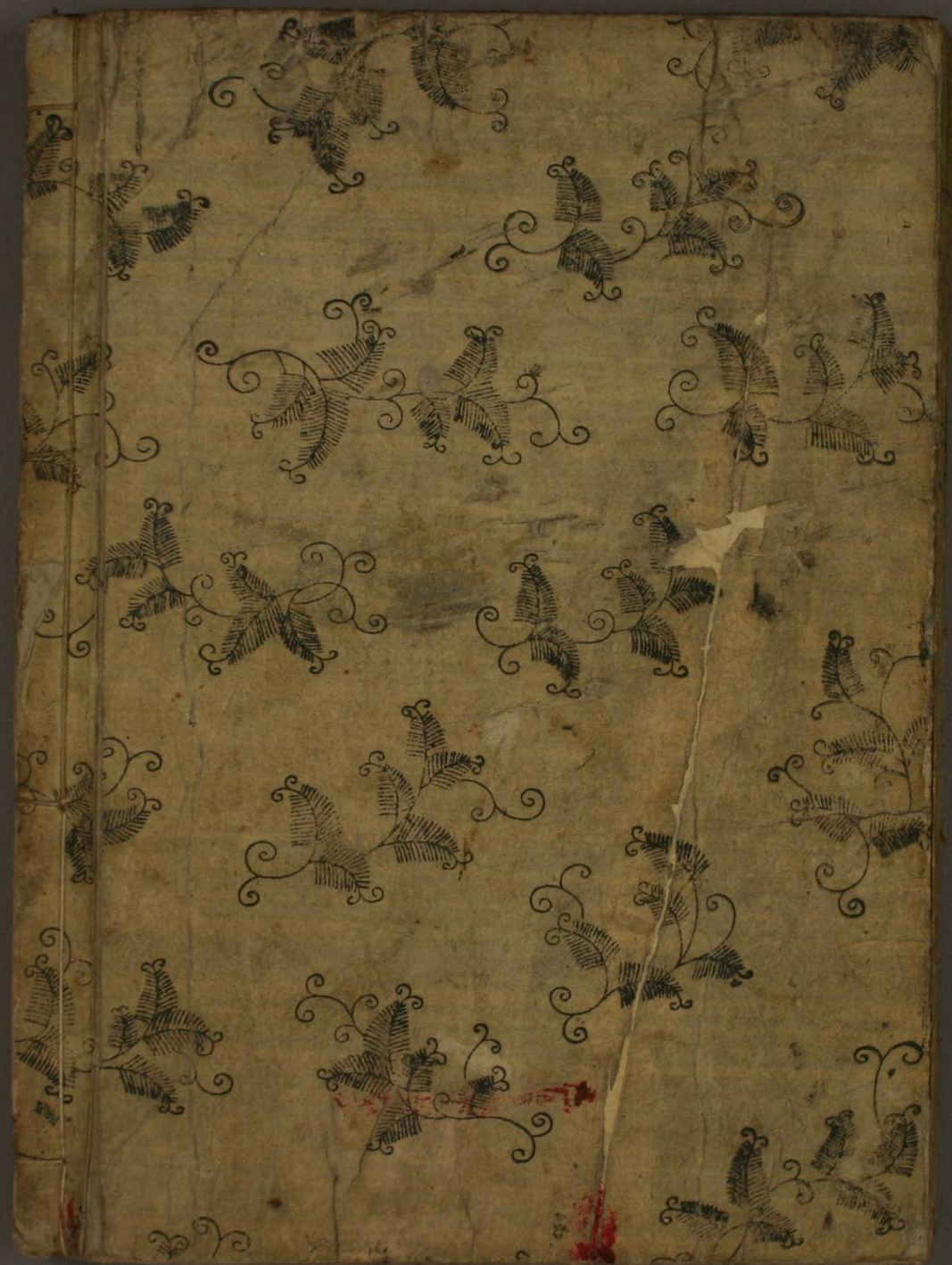
ちうろうこのちうろうぞ

時の西奉行様ふえのあくりをさてをせむ
んと申てさうづいこむかしくなりにそりくといをつと
女房ハどもをとりとられて元よりひてをんそなむ三
がつ。もつとの顔のぐてとつまの振指めさをりよりしろ
き糸よ切付るお糸ハかりゆりあんしてて
ちひとりぬをあやうりおの丑をなをとろほひ
切てうるをうけかぐ。ぐとをとうかひみくんをあげけ
ちうれでめくかのあいよ切付られ服をくこうさ
アぬ。もつとへもむけの中ぐの一会。ちひを丑をいよこ
糸よ表をかりハ間をさまし。給事やうんとうけつき表人
ぐをぐへよおどろをさへぐろしくよをうを丑だ町中の
んくよ櫛つをう丑を髪の町代代愛五へやぐんを

寺へとひしめきをるをちぐらくをそて右糸ハむをとと
いかをり。こて中こ関をうを討よ切付をれがをそてけお
こを為年くをまくを女房よ右りけをおく脇を刀出女男
二世三世ハ為りしへの敵をこのを紙よをうをせそ
とをよをちをくを。をりくをれでをとのををよをうをりぬ
を修うへよ糸をうりむよ振指をそかぐを。をぐをと
どをハをてぐりぬ対刻うつをれをんをの役人京三郎の
外色田郎右衛門をのををのどを引くを。表八やうをを
入をれで。を奉町中をへんををひくくの口書先女
房ガ右ねのむをじくくを書をでめ次よ右糸ハむ
正をあをつをまがはよをつをまびをうふは詮義源。女をれぐを
ひくくををををうを承知よをでめををぐを事のりをを

んごさのこんやくとゝのこれあるよし聞とまもり河内守
殿へぶしゝあるとおらるゝは、さてゝうさぶ義八うゝ孫右衛門方
まいりけ付て通ゝ見つくゝよりて孫右衛門。ふびんなるハもつま一人
こゝ通、孫右衛門ことにあいしゝ孫右衛門ゝ孫つゞべゝあるよしを次よりあつ
まりとゝ通ゝ仕ハ孫八方ゝ孫右衛門ゝ孫八
お果れハ孫房さまたちゝ孫八ゝ孫八
つゝゝ通が老さまゝ孫右衛門ゝけ孫さまゝ孫八ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門
孫房ゝけ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門
ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門
理地頭ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門
ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門
孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門ゝ孫右衛門

二の巻終

松壽

法忠武道容氣